ICたより

公益社団法人　国際IC日本協会機関紙

一人ひとりのチェンジで信頼を築く

Initiatives of Change Japan

発行年月日　2014年3月10日
発行所　公益社団法人　国際IC日本協会
〒160-0004　東京都新宿区四谷4-28-20
パレ・エテルネル　206号
TEL：03-6273-1428　FAX：03-6273-1429
E-Mail：info@jp.iofc.org
HP：www.jp.iofc.org

14

頒価　1部100円

◇目次◇ INDEX

年間予定2014年のプログラムについて　寄稿　パンチガーニを訪れて
CIB2013報告　世界のIC活動紹介
他

２０１４年のICプログラムについて

皆様、本年もよろしくお願い申し上げます。さて、本年も社会の要請に応えるため次のような活動を進めて参ります。皆様のご支援、そしてご参加をお願いいたします。

【国内】

・第36回IC国際フォーラム　6月

本年は、6月20日（金）から22日(日)まで、昨年と同じ、BumB東京文化スポーツ館で開催されます。今回はこの会議に合わせて来日するオムニア・マズーク（Dr Omnia Marzouk、エジプト/イギリス）ICインターナショナル会長（写真、注参照）から、南スーダンを始めICが平和や融和をもたらすために世界の各地で行っている様々な活動についてもお話し頂きます。「日本のICの友人の方々とお会いするのを楽しみにしています」とのことです。又、日本で学ぶ留学生が沢山参加できるよう広く呼びかける予定です。昨年のフォーラムに参加して有意義だったと感じてくれたインド、マレーシア、そしてベトナムの留学生たちを含め、青年たちを中心にした準備委員会のメンバーが、昨年の9月から毎月集まり、意義深い内容の会議にしようと張り切って準備しています。是非、皆様もご参加ください。

（注：医師、エジプト出身、外交官であった父親の赴任地オーストラリアのシドニー大学で医学を学ぶ。現在、イギリスの小児病院で副[redacted]レクターを務める。2011年にICインターナショナルの会長に就任）

・学校訪問プログラム（国際理解と心の教育）　5月～7月

国際理解と心の教育を同時に行う本年の学校訪問プログラムは、5月7日から7月7日までの予定です。今回は次のインドネシア、インド、そしてコソボ/カナダからICの国際リーダーシップ養成プログラムを受けた青年3名に、日本の木村美香さんを加えた4名が、各地の教育委員会等との連携の下、東京、福岡等で多くの小・中・高・大学等を訪問します。

アツヌオ・ヒエカさん ①ｲﾝﾄﾞ・ﾅｶﾞﾗﾝﾄﾞ ②28才③社会学修士号取得、高校で2年間社会科教師）

ユディ・セプティアワン氏　①インドネシア ②24才③インドネシア大学大学院で国際関係を専攻中

アルバー・フェテュー氏　①カナダ/コソボ ②29才③政治学修士号取得、コソボ教育省アドバイザー

木村美香さん　①日本② 25才③大阪府立大学4年生、教育学専攻

・インターンシップ・プログラム　9月

ICの国際リーダーシップ養成プログラムを受けたベトナムの大学生1名を9月末から約1ヶ月間、招聘する予定です。（又、同時に日本の青年たちも、インターンやボランティアとして、インドICセンター、スイス・コー世界大会、オーストラリア・アーマーセンター等で各国の青年たちと共に活動する体験を得ることができます。

・ICセミナー―心を育てるネットワーク―　3月、10月

2002年以来、これまで17回にわたり、関東、関西、福岡等で開催してきました。心の糧となる講演、お互いの人生の転換点等についてじっくりと話し、またアクティブ・リスニングを行う「ストーリー・テリング」、そして、静かに自分を見つめなおす「静かな時間」の三つがこのセミナーの柱で[redacted]3月1日（土）～2日（日）までは福岡で行い、10月には箱根で1泊2日で開催する予定です。

・中国からのグループの受け入れ　10月

中国の人たちとのグラスルーツでの深い交流を図るため、中国国際交流協会のグループを招聘し、秋（10月頃）に交流プログラムを行う予定です。

・IC交流学習会　毎月

ICの唱えるチェンジの秘訣を共に学んで毎日の生活を充実させられるよう、毎月、交流学習会を月、1～2回ICオフィスで行います。又、その他、自分と家族について深く考えることにより多くの気づきを得ることのできるファミリーワークショップも開催する計画です。

【海外】

・第20回アジア・太平洋青年会議（APYC）　8月

1990年よりアジア各国の持ち回りでこれまでに19回開催されました。アジア・太平洋各国の青年が集い、深い話し合いを重ねる中から、一生続くような友情のネットワークを結ぶことが可能になります。今回は、8月2日から10日（9日から10日はホームステイプログラム）まで台湾で開催されます。

・第11回東北アジア（日中韓）青年フォーラム　8月

2004年より韓国MRA/IC本部の主催によりスタートし、これまでに10回開催されました。このフォーラムは、中国や韓国に親しい友人たちが沢山できると共に、様々な有意義な体験ができます。今年は、8月18日の週に5泊6日で開催される予定です。

・スイス・コー世界大会　7～8月

「コーは生きた新聞」と表現された方がいました。世界各国からの参加者があり、いながらにして世界の痛みや希望も直接肌で知ることのできる会議です。今年も、「世界の変化につながる私たち一人ひとりの在り方を考える」(仮訳)の総合テーマの下、6月30日から8月13日までの間7つの会議（各1週間）が開かれます。詳細は、IC事務局まで、お問い合わせ下さい。
コーの詳しい情報（英語）は：http://www.caux.info.org/en/home　でもお知りになれます。

コー・イニシアティブス・フォー・ビジネス（CIB）会議　2013年11月

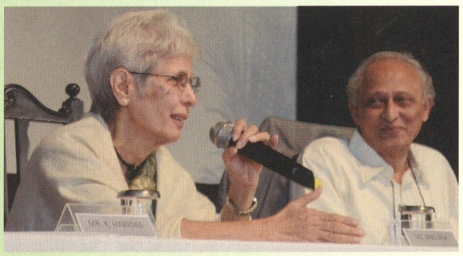
第4回日本・インド共催会議

「経済成長を持続可能で人にやさしいものにするために―その課題と可能性を探る」

2013年11月7日（木）から11日（月）まで、20か国・地域から218名の代表たちが集まり、アジアプラトー（インド・パンチガーニ）でインドICとの共催によるCIB国際会議が開催されました。日本からは、ANAホールディング、スズキ自動車、損保ジャパン、東芝、中日本高速道路、横河電機、静岡県、CRT-日本委員会からの代表（現地駐在の方を含む）を始め、個人参加の代表やIC協会の事務局を含む20名が参加しました。静岡県の川勝平太知事にもご参加頂き、最後の閉会式に於いてタタ・インダストリーの前会長チョーカー氏と共に「富国有徳」のビジョンをお話し頂きました。今回は、地元インドのタタ・グループやインド・シーメンス等の役員を始め多くのインドの産業人、政官界やNGOの代表等が参加したのを始め、アジアでは、韓国、台湾、マレーシア、中近東から、アフリカからはケニア、ウガンダ、エジプトから21名が、又、ヨーロッパからは英国、スイス、ドイツから21名が、又、アメリカからは4名が参加しました。

このCIB会議は隔年で開かれていますが、前回2011年のCIB会議の後、インド国内5都市（ムンバイ、プネ、ジャムシェッドプール、ニューデリー、バンガロール）で、円卓会議形式によるCIB地域会議が開催され、CIBの理念の浸透と併せて本会議への参加に向けての広報がなされました。更に、CIB事務局の、事前のマレーシア、ドイツ、スイス、更にはアフリカ諸国などへの訪問も功を奏し、今回多くの国々から多彩な参加者を得ることができました。

▲日本・インド主要参加者の懇談風景



インドと共催を始めてから4回目（5回のCIB会議の内、1回目はインドICが主催）となりインドICと日本ICと間のパートナーシップがより深まりつつあります。日本IC協会・矢野会長の基調講演では、体験に裏打ちされた「強い会社になるためには先ず良い会社にならなくてはいけない」とのメッセージが多くの人々の共感を呼びました。又、前述の静岡県の川勝知事が、インドICの責任者であるラジモハン・ガンジー氏（米イリノイ大学教授、マハトマ・ガンジーの孫）やサロッシュ・ガンジー氏（元タタグループ会社役員、CIB共同代表）等と懇談した席では、ガンジー氏から、日印両国が、より大きな視野を以て中国や中近東にも共に奉仕していこうという、未来志向のビジョンが語られました。

会議では、「経済成長を持続可能で人にやさしいものにするために―その課題と可能性を探る」のテーマに沿って、全体会議では、各国からの参加者が率直に問題を克服した体験やビジョンを話したのに加え、午後には①「悪しき統治による成長の阻害を如何に克服するか」②「知識労働者を如何にリードするか」③「利潤の先にあるもの―ビジネスの真の目的を探る」のサブテーマでパネル・ディスカッションと意見交換が行われました。又、CIB会議の特徴である、インナー・ガバナンス（内なる統治）というセッションでは、ICの基本（静かな時間と個人のライフチェンジ）の上に、ビジネスの現場に於ける優れた実践例が多く示されました。

▲3・11の際寄せられた善意に感謝を込めて日本人全員で「花は咲く」を合唱

又、今回も「文化の夕べ」では、参加各国の参加者による音楽や踊りに加え、日本からは、「花は咲く」の歌と「炭鉱節」を披露しましたが、各国の参加者も日本人の輪の中に入って共に楽しみ、参加者同士がより一層親しくなりました。

最終日には、2015年の次回のCIB会議を更に充実したものにするために、各国から具体的なアクション・プランが示されました。

▲日本から寄贈「富士山と桜」の額皿（伊万里焼）

日本からの参加者の感想の一部をご紹介いたします。

（良かった点）
「①自分のコアバリューとは何であろうか？この問いかけを会議を通じ常に意識させられた。相手を思いやる心？相手を尊重する謙虚さ？武士道精神？などいろいろ考えさせられた。②道徳教育は特定の価値観の押しつけであるという議論があるが、今こそ、もっとも必要なのが道徳教育ではないだろうか。生きるためのテクニックばかりを重視する世の中だからこそ、人間としての本質に軸を置いた価値観を醸成する必要を感じる」
「①主題に関するプレゼンテーション、ワークショップもさることながら、参加された日本人の方々との親交、多くの国、さまざまな組織の方々とビジネスフィールドを離れた場で会話をできた点。②スピーカーの中では、Ms.Anu Aga(Thermax 社取締役) が現実的なインドのビジネスも引合いに出したうえで話されていた内容。③朝のプログラム、とりわけ Inner Governance（内なる統治）は自分自身を見つめ直す良い機会だった」
「①企業家、政治家、役人、活動家など、様々なお立場の方々から、違った角度で、CSR に関する話をたくさん聞くことが出来たこと。②また、食事の時間、自由時間などで、フランクにお話が出来たこと」

（今後の活動や考え方に役立つと思われる点）
「①人間はいつも仮面をかぶっている。それを取り換えながら生きている。②会社は、目的や価値を大事にし、価値を生み出さねばならない。③良い会社であって、そして強い会社であること。順番は変えられない。④結果を出すのはリーダーとして当然のこと、人として高い人格を持っていることが必要。⑤ CSR は、日常の活動の中に組み込まれていなければならない。コスチュームや仮面では持続しない」
「① CSR 活動の位置づけについてさまざまな角度からの議論に参加できたこと。当社の現地法人の経営を行っていくにあたって参考にできる。②多くの国の方々と食事をともにしながらの会話の機会を持てたこと。グローバルという意味をあらためて考える良い機会となり、今後の思考に役立つ」
「今回、初めて参加したが、今までの自分自身では考えつかないこともたくさんあり、違った切り口や目線で、物事や業務を捉えることを学んだ。企業に働く者として、利潤の追求は当たり前のことであるが、利潤を超えたものを追求するという、会議の一貫した姿勢とテーマには感銘を受けた」

桜プロジェクトについて
前第４回の CIB 会議からの懸案になっていた、アジアプラトーの日本庭園に日本から桜の木を寄贈するという構想は、試行錯誤をしながらも種々調査研究した結果、日本の桜はインドのこの地域の自然条件に照らしてムリであるという結論に達しました。それに代わるものとして、富士山と桜の絵柄をあしらった伊万里焼の額皿をアジアプラトーに寄贈することになり、開会式において披露され、アジアプラトー内の部屋の一角を飾ることになりました。しかしながら、今後、引き続いてインド IC 側と協力しながら、日本庭園の整備を目指すことが申し合わされました。会員の皆様のご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます。

尚、今回の CIB 会議に際しましては、一般財団法人 MRA ハウスを始め、ANA ホールディング、スズキ自動車、損保ジャパン、東芝、横河電機、CRT- 日本委員会、NEXCO 中日本基金、の各社・団体からご協賛を頂きました。ここに改めて御礼申し上げます。

2 年ぶりにパンチガーニを訪れて

堀口　満智子（会社経営）

二年振りにムンバイ空港に降り立った。長野さんに出迎えて頂き、その日 1 泊ホテルで他の方々と合流、朝夕のムンバイ名物交通ラッシュを避けるため、早朝 7 時 30 分にバスでパンチガーニへ出発。約 6 時間の車中、途中 2 か所でのトイレタイム、2 年前とは日本人には気になるトイレも改善されてきたように思えた。(但し、ペーパーは必持参)。旅は道連れ、ドイツからの参加者も交え車中では自己紹介などで和やかな雰囲気。笑いの絶えない中、6 時間の長旅もさほどには感じられなくパンチガーニに到着した。懐かしい建物、広大な庭々、各部屋々々。
さっそく、夕方より開会式。代表を務めるサロッシュ・ガンジー氏のスピーチで始まり、共同代表である矢野会長や他の方々のスピーチが続く。日本からの寄贈品、「富士山と桜の絵柄の伊万里焼」の額皿は人々の目を奪い会議開催中、ずーっと舞台に飾られていた。日本とインドの架け橋になってくれそうな気がする。充実した 6 日間のプログラム、午前は主に全体会議、企業の代表の方々の話。午後は色々なコース別があり、こちらも聞きたい、あちらも聞きたいと迷ったりもした。ウィメンズだけのプログラムも用意されてあり、インドのご婦人達と今回 3 人だけの日本女性の参加ではあったが、まだまだ習慣の違いには驚かされ会話も熱中した。

中でも私が心打たれたのは、150 年の歴史を持つインドの大企業、タタ・スチール社の副社長の話。基本的な理念は、「企業とは人々の幸の為、社会の人々の為に成ること、利益のみ追うのではいけない。多くの企業が異常な行動、理念にずれた行動をとると、社会に貢献することから外れる。企業が利益の総額だけで評価されるようになれば利潤追求だけに走る。生徒が点数だけで評価されると、生徒は点数とりに走ることになる。公平なビジネスを通じて、社会に不正のないようにする必要がある。以前、我社も大きな苦境に陥った時、他国に相談を求めたことがあった。膨大なレポートが送られてきたが、結論として自分達が改善しないと解決しない。これが答えだった」と。このようなことは企業だけでなく、我々の日々の生活のなかでも言えることだと思う。

もう一つ嬉しい報告！今回日本から参加した 3 人の女性とガンジー夫人とアジアプラトー内の庭を散策してツツジ・竹・小手まり・苔らしき草を発見！ガンジー夫人から、この敷地に大きな石を置き、これ等を利用して日本庭園らしくすることを考えて下さるとの約束をして頂いた。彼女は何度も日本を訪れたことがあり、たくさんの日本庭園を見学されている方とお聞きした。2 年後が楽しみである。

今回は 20 か国、約 200 人余の参加者、その中でもインド CIB における日本の存在感が一段と強く感じられた。スイスのコー、インドのパンチガーニという共に素晴らしい環境の中、世界中の人々が I C の精神の基に集い、語り合う。そして健全な地球を守り、人々の平和を願う活動に参加できる私は感謝の念で一杯である。

IC ワールドニュース

＊インド 2014 年 1 月　「民主主義を真に機能させるために」

『民主主義を真に機能させるために、私たちは何をしなければならないか？』というテーマでインド IC センターでの 2014 年の最初の国際会議が 1 月 10 日から 14 日まで開催されました。開会式で主催者の一人アスラニ氏は、マハトマ・ガンディー翁の『民主社会の精神は、制度にあるのではなく、人びとの心の変革にこそある』との言葉を引用し、この国際会議では、話し手が一方的に講義をするのではなく、お互いの考えを分ち合い、対話していきましょう」と、述べました。この会議には、アフガニスタン・フィジー・ルーマニア・南スーダン・チベット・ジンバブエ・英国・レバノン・ミャンマーを含む 32 ケ国から 142 名の参加者がありました。参加していたある政治家は、断固として汚職を断った時の経験に触れ、「賄賂に使うのではなく、消費者と経営者との双方にとって有益なビジネスに投資するようにと提案しました」と語りました。
詳しくは http://www.iofc.org/making-democracy-real-dialogue-2014#sthash.KGz5qDqo.dpuf

＊インドネシア 2014 年 1 月

1 月 3 日－ 8 日 インドネシアでは ベトナム・カナダ・台湾からの参加者の支援も受けて、「自らの内なる心の力を見いだし、人びとと分かち合おう。チェンジは自分から」というテーマで、５０名の参加者が集り、「第 10 回青少年のためのリーダーシップ研修キャンプ」が開催されました。正直で率直な思いを語り合い、「それぞれができることから始め、より良い社会を築いて行こう。まわりの人びとに寄り添い、支え合う心を示して行こう」との決意を新たにしました。

＊ウクライナ

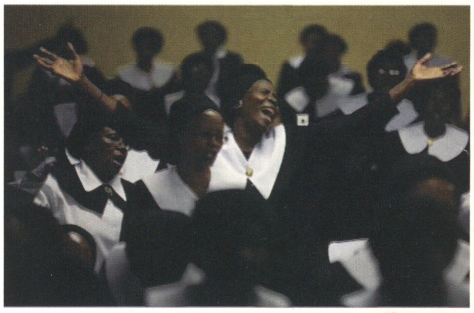
波乱が続いているウクライナで、将来への正しい道を見いだそうと、IC の集まりが開かれました。「私たちは、先ず自分の在り方を見つめ、世界の変革への道を切り開いていこうとしています。全ての変革への道は、まず自らのチェンジからです。これからのウクライナの行方について、皆様のお心に掛けて頂ければ有難いです」とのメッセージが IC の青年たちから寄せられています。

＊南スーダン 2013 年 12 月

紛争の続く南スーダンでは、困難な状況の中でも IC の研修会が開かれています。内紛が激化し、国の存続が危ぶまれる中、アフリカ大陸で一番若い国の人びとが、それぞれの置かれた立場で対話による紛争解決の道を見いだせるよう、世界の IC のチームがサポートをし続けています。
詳しくは：http://www.iofc.org/reconciliation-south-sudan#sthash.LTRTn8UD.dpuf

＊南アフリカ 2014 年 1 月

IC のドキュメンタリーフィルムが、アフリカ世界ドキュメンタリー賞に輝く！



和解をテーマにした IC のドキュメンタリーフィルム“至高の許し”が、2014 年 AWDF アフリカ・ワールド・ドキュメンタリー映画祭でドキュメンタリー賞を受賞しました。
これは、南アフリカのアパルトヘイト政策に反対していた黒人のリーダーの指示で娘を殺された白人の母親と、その指示を出した黒人のリーダー（現国会議員）が、劇的に出会い、互いの不信感を克服し許しあうようになった実話で、多くの人々に大きな希望を与えています。イギリスの IC は、2014 年 5 月から、この 2 人を招き、同フィルムを携えて、平和を築くための和解の教育キャンペーンを各地で行う予定です。
詳しくは http://www.uk.iofc.org/beyond-forgiving-finalist-africa-world-documentary-film-festival#sthash.QKy03rfr.dpuf

＊コロンビア 2014 年 2 月

「中南米諸国の人びとの心で紡ぐ、変革の共同意識」と題して、2014 年 2 月 14 日－ 19 日に、中南米 IC ファミリーが世界の IC の人びとを招き、ボゴタ・コロンビアで IC 会議を開催しました。
この会議では次のことを目指していました。

1. 中南米諸国における IC の歴史に学び、今、中南米諸国が直面しているそれぞれの課題への解決策を探る
2. 中南米諸国に与えられている IC の役割についての理解を深める
3. 中南米諸国のそれぞれの国が抱えている課題を共に担うために、各国からの参加者それぞれから学び合い理解を深める

【入会のお願い】
当協会は、皆様からの会費及び寄付金により運営されています。世界の平和につながる青少年の育成や国際交流活動等のため、是非ご入会の上、ご支援ください。
○個人正会員　　会費年額　6,000 円
（議決権を行使できます）
○個人賛助会員　　会費年額　3,000 円以上
○法人賛助会員　　会費年額　50,000 円（一口）

@編集後記

前述のように本年 6 月に開催する予定の第 36 回 IC 国際フォーラムに向け、留学生を含めた青年たちが熱心に準備を進めてくれています。より多くの若い方々が IC を通して世界の IC の青年たちとネットワークを強め、世界のために共に活躍していけるようサポートしていきたいと思います。
（編集委員：岡本さくら、兼松惠、長野清志、中山啓介、弓場睦）